

音楽ホールの施設概要について

1. 音楽ホールの基本方針

(1) 音楽ホール整備の意義

音楽ホールは、仙台の文化芸術分野における以下の背景・ニーズを踏まえ整備するものです。

① 仙台に根づいた市民の文化芸術の力を活かし、発展させる拠点の必要性

仙台では市民による豊かで活発な文化芸術活動が展開されてきました。震災復興の過程において見られたように、文化芸術を市民生活や地域社会を支える力とする取り組みも行われています。こうした蓄積を生かし、さらに発展させていくため、市民、特に次世代を担う若い層がプロと同等の素晴らしい舞台環境で公演等の体験ができる施設、実践を通じて文化芸術の多様な担い手を育成していく施設が必要であると言えます。

② 大編成オーケストラ等の演奏に適切な響き豊かなホールの必要性

仙台市内には、大編成のオーケストラ公演、それにさらに合唱が伴った大型公演などに適した施設がありませんでした。仙台フィルハーモニー管弦楽団を有するとともに、協奏曲を課題とする国際音楽コンクールなどの各種「楽都」事業により実演芸術の資源が蓄積されてきた本市として、このような公演を可能とする舞台を持ち、生の音源に対する音響性能に優れた2,000席規模の大型ホールが求められてきました。

③ 大型の舞台芸術の制作・実演が可能な施設の必要性

新国立劇場が整備されて以来、オペラ、バレエなどの総合舞台芸術の創作、公演が国内各地で活発になり、主要な施設間でネットワークが形成され共同制作なども盛んになっています。幅広い分野が関わる総合舞台芸術の制作は地域の人材育成にもつながるものです。そのような舞台芸術の展開を可能とする、広く設備が充実した舞台、オーケストラピット、制作工房、作業場などを有し、全国の主要施設との連携が可能な施設が求められてきました。

④ 文化芸術の全国大会などの開催を担うことができる施設の必要性

多くの団体が次々と出演し、多くの観客が集う文化芸術の全国大会・東北大会などは、主たるホールの規模が2,000席以上であり、かつ多数の附帯施設があること、入退場・搬入が容易であることなどが開催要件となっています。このような大会はこれまで仙台では開催できず、全国的な交流の場となる機会を逸してきており、大会開催に必要な規模・機能・諸室を持つ施設が求められてきました。

⑤ 全国を巡回する多様な公演を受け止めるホールの必要性

仙台市内で固定舞台と座席を持つホールは、これまで宮城県民会館（東京エレクトロンホール宮城）（1,590席）が最大でした。全国を巡回するツアー公演は2,000席規模が主流であり、東北最大の交流・集客都市であって主要なツアー拠点と位置づけられる仙台市には、その文化芸術基盤として、この規模のホールの整備が求められてきました。

なお、宮城県民会館は2,000～2,300席の大ホールを有する施設への建替が計画されていますが、音楽ホールは本項目で記した各種ニーズを踏まえた施設として、ハードの特性・性能面、ソフトの運営面での役割分担を図ります。また、宮城県民会館の建替を前提とした需要調査を行った結果、音楽ホールで十分な需要が見込まれることを確認しています。

(2)音楽ホールの基本方針

仙台の文化芸術の総合拠点

- 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（劇場法）」で示された「新しい広場」「世界への窓」といった理念を体現し、実演芸術を中心とした仙台の文化芸術の振興を総合的に推進する拠点と位置づけます。
- 文化芸術の持つ本質的価値の発揮はもとより、経済的な波及効果、心の豊かさや生活の質の向上、都市への愛着の高まり、社会の活性化といった多様な社会的価値を都市にもたらす施設を目指します。 ⇒参考:文化芸術の社会的価値の創造

①「楽都仙台」を象徴する実演芸術の拠点

- 音楽をはじめとする多様な実演芸術分野において、これまで仙台ではできなかった公演・活動を可能にし、仙台・東北の文化芸術を牽引する拠点
- 市民とプロフェッショナルが共に主役となり、これまで蓄積してきた資源を生かしながら、仙台ならではの創造発信を行う拠点
- 「楽都仙台」の中心的存在である仙台フィルハーモニー管弦楽団が自らの本拠地として活動を展開する拠点
- 仙台国際音楽コンクールをはじめとする市の文化振興施策の展開の中心となる拠点

②文化観光交流の新たな核となる拠点

- 仙台が誇る青葉山エリアに、新たな魅力と価値を付加し、エリアのシンボルとなる拠点
- 周辺施設との連携等によりエリアに滞在する楽しみを豊かにし、隣接する都心部も含めた回遊を促進し、賑わいを生む拠点
- 文化芸術を介した交流の場として全ての人に開かれ、一日中人の流れのある拠点
- これらを通じ、仙台という都市そのものに新たな魅力を付与する拠点

③復興の過程で明らかとなった文化芸術力を社会に活かす拠点

- 文化芸術の持つ力を社会の様々な分野に活かし、将来起こるであろう災害などの有事も見据え、地域のレジリエンス^{※1}を高めていく拠点
- ホールの公演の鑑賞だけではない多様なアプローチで、文化芸術の持つ力をあらゆる人に届け、暮らしやまちに浸透させる拠点
- 社会包摂^{※2}を基本的視点とし、文化芸術を介してあらゆる人に社会参加の機会を開き、多文化共生社会の実現に貢献する拠点

※1 レジリエンス：弾力・弾性・回復力の意。困難な事態に直面した時に、状況に適切したり立ち直ったりする力のこと。

※2 社会包摂：誰もが排除されることなく、「居場所と出番」を持って社会に参画し、それぞれの持つ潜在的な能力を発揮できること。

(3)複合施設として目指す施設像の音楽ホールとしての具体化

(複合施設として目指す施設像)

①「誰もが集い、交流し、新しい価値を創造する場」



(音楽ホールとしての具体化)

- 特定の文化芸術に興味を持つ人だけが集まるのではなく、年齢、障害の有無、国籍、社会的背景等に関わらず、誰もが気軽に訪れることのできる「新しい広場」となり、多様な系口からの文化芸術体験を通じて、人と人との繋がりや新たな価値の発見がもたらされる場を目指します。
- 多様な人々が集まる拠点となり、その中から文化芸術・まちづくりの次世代の担い手が育つような施設を目指します。
- 文化芸術目的の来館者、災害文化目的の来館者が交わり合うことで、さらなる出会いや交流が生まれるような施設を目指します。

②「仙台を知り、磨き、仙台オリジナルの発信につなげる場」



- 仙台には「楽都」「劇都」としての官民双方の取組の蓄積があり、震災復興過程をはじめとする社会の様々な場面で文化芸術の力が発揮されてきた実績もあります。こうした蓄積を多くの人と共有し、より一層磨き上げ、この施設ならではの創造発信を行い、さらにそれを社会へとつなげていきます。
- 仙台の歴史や東日本大震災の経験といった「地域固有のもの」を文化芸術の切り口で捉え、独自性ある創造発信につなげていきます。

③「ネットワークを形成し、市内外から人が訪れたいくなる場」



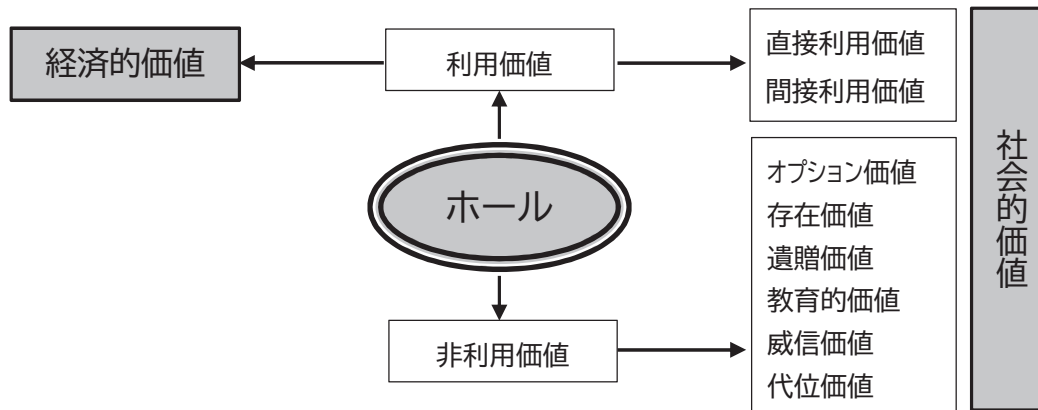
- 全国の主要文化施設との連携のもと、優れた実演芸術作品の上演の場となり、地方から我が国の文化芸術を盛り上げる存在となります。
- 地域内で様々な連携関係を構築し、まちの活性化や文化芸術振興を図ります。
- 広域から人を呼び込める価値を創出することで、仙台の魅力を高め、交流人口・関係人口の拡大につなげるとともに、市民のシビックプライドを醸成します。

【参考】 文化芸術の社会的価値の創造

～ホールを直接利用しない人にも大きな価値をもたらす～

- 近年の研究においては、ホールを直接利用しない人にも大きな社会的価値をもたらされていることが確認されている。
- ホール施設は利用者数や利用者による消費額などで評価されることが多く、投資効果が悪いと評されることもある。しかし、交流人口や関係人口の拡大、社会の活性化、街のイメージや魅力の向上など、施設を利用していない人にも様々な価値をもたらす存在として、多面的に評価を行っていくことが求められる。

図 ホール利用と文化芸術の価値の分類



■利用価値

(経済的価値) : 施設を利用者した人の消費行動がもたらす波及的な経済効果
(社会的価値)

直接利用価値: 公演を鑑賞して感動や満足を得る

間接利用価値: 文化芸術に直接触れないが、施設で休息することで得る価値

■非利用価値

(社会的価値)

オプション価値: 今は利用しないが、いずれ行くと保留する価値

存在価値: 実際には利用していないが、ホールがあることに感じる価値

遺贈価値: 自分は利用しないが、子どもや将来世代はぜひ利用して欲しいと思う価値

教育的価値: 社会の創造性が高まり利用しない人も得ることができる価値

威信価値: 都市のアイデンティティや誇りとなる価値

代位価値: 自分は利用しないが、家族等が利用していることで感じる価値

注) この項目は、政策研究大学院大学文化政策コース「2019年度文化庁 大学における文化芸術推進事業課題解決型のシアターマネジメントに向けた次世代リーダー育成のためのプログラムの開発」における「ハンドブック・特別講座編」、『文化政策 応用編 劇場の経済価値』垣内恵美子教授 を引用、参考にしている。

2. 音楽ホールの機能

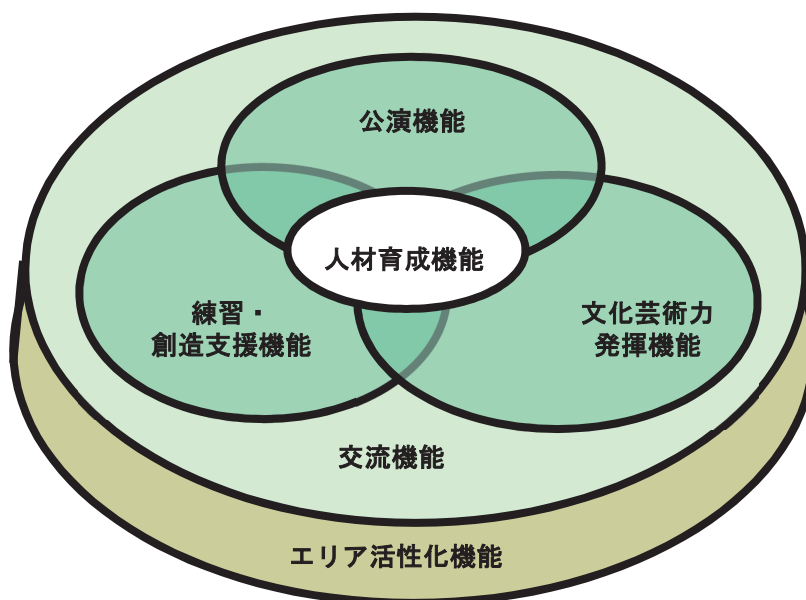
実演芸術を中心とした仙台の文化芸術の振興を総合的に推進する拠点として、以下の6つの機能を有する施設とします。

機能	概要
①公演機能	音楽をはじめとした多様な実演芸術の鑑賞機会、発表機会を提供する機能
②練習・創造支援機能	練習活動をはじめとし、実演芸術の一連の創造プロセスを支援する機能
③交流機能	誰もが日常的に集い、憩い、居場所を見つけ、文化芸術を介して様々な交流ができる機能
④都市活性化機能	青葉山エリアの賑わい創出や、都心を含む都市全体の活性化に寄与する機能
⑤文化芸術力発揮機能	文化芸術の力を社会の様々な分野に活かしたり、様々な系口から人々が文化芸術を体験したりする活動を行う機能
⑥人材育成機能	実演芸術の担い手、音楽ホールが目指す様々な活動を担う人材、これからの仙台の文化芸術を担う人材を育成する機能

【6つの機能の連携】

- 例えば「練習・創造支援機能」を通じて「公演機能」が充実し、魅力的な公演が展開されることが「エリア活性化機能」につながっていく、あるいは「交流機能」で生まれたネットワークが「文化芸術力発揮機能」に生かされるなど、6つの機能は相互に関連します。
- 特に「人材育成機能」は、他の機能の実践を通じて人材が集まり、育ち、その人材の多様な活躍によって他の機能が更に充実するといったように、全ての機能の核となります。
- 仙台国際音楽コンクールなど、この6つの機能の総合的な発揮が求められる大型事業にも対応していきます。

【機能構成図】



3. 音楽ホールの事業

(1)事業の方針

音楽ホールの基本方針や6つの機能に基づき、以下の4つの方針のもとに事業を展開します。

【事業の4つの方針】

①創造	仙台の個性を活かし、この施設ならではの創造・発信を行う
②活力	文化芸術による交流の促進、まちの活性化を図り、仙台の活力を高める
③発揮	文化芸術の力を活かし、誰もが輝ける豊かな社会を切り拓く
④育成	仙台の文化芸術活動の発展に向け、人を育てる

(2)事業の主体類型

- 施設が主催する事業だけではなく、市の事業、施設の理念や方向性を共有できる団体等とのパートナーシップにより実施する事業など、多様な主体による事業を想定します。
- これらに施設が適切な関わり方をするにより、プロフェッショナルや市民など、「みんな」の力により音楽ホールの掲げる施設像が実現されることを目指します。

主体の類型	概要
施設主催事業	施設管理運営費のほか、チケット収入、補助金、寄付金などの財源も活用しながら、施設として多様な主催事業を行っていく。大ホールや小ホールでの公演のみならず、施設内の様々な諸室や空間を活用した事業、施設の外に出向いての事業も行う。
市主催事業	仙台国際音楽コンクール、仙台クラシックフェスティバル等の市主催事業においては、施設管理運営者は、企画運営の一部を担うなど、主会場として密接な連携協力を行う。
仙台フィルハーモニー管弦楽団事業	仙台フィルハーモニー管弦楽団の本拠地となり、地域の音楽文化の普及・向上のため、様々な側面で協働していく。上述の施設・市主催事業における起用や共催のほか、楽団の自主演奏会の開催や練習活動に関し、施設利用の優先的取扱いなどを行う。
共催・協力・連携事業	施設の理念・方針に基づき、各種主体が実施する一定の事業に対し、事業の共催、企画・運営・広報等の支援・協力、施設利用の優先的取扱いなどを行う。 ・合唱・吹奏楽など文化芸術活動の全国大会・東北大会 ・地域の文化芸術関係者や地元メディアなどが企画する、公益性の高い事業 など
貸館事業	各種主体が施設を使用して行う事業。適切なサポート体制や予約方式を構築し、多様な主体による公演・文化活動の促進を図る。 ・プロモーター等が企画・主催する公演 ・市民文化団体の公演・発表会 ・学校の合唱コンクール等の行事 など

(3)事業の概要と取組例

① 創造		創造発信事業
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幅広い方々が気軽に親しめる作品、高いクオリティを持った作品、時代の先端にある作品など、市民の多様な期待に応えられる鑑賞機会を提供する。 ○ 仙台ならではの企画、作品制作、発信を通じ、「楽都」「劇都」の都市ブランドをさらに高める。 ○ 全ての人に鑑賞の機会が開かれるとともに、プロフェッショナル・アマチュアを問わず、誰もが音楽ホールの様々な空間を舞台として主体的な創造活動に参画できるようにする。 ○ 仙台の歴史、文化芸術の歩み、災害の記憶など、地域に根差した事柄をリサーチし、創造発信を行い、将来に向けた仙台の資源としていく。 	
取組例	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企画段階から多様な市民が参画する、仙台オリジナルの公演を行う。 ○ 東北ではなかなか開催されないような先駆的・先進的な作品など多様な公演を、地元メディア・プロモーター企業等の力も活かしながら展開する。 ○ 他の文化施設とのネットワークを形成し、共同企画制作などにより、単館では難しい制作活動を実現させる。また、仙台で制作した作品を展開する。 ○ 「楽都仙台」の主要事業である仙台国際音楽コンクールの主会場となる。 ○ 仙台フィルハーモニー管弦楽団と協働し、多様な公演を展開する。 ○ 午前中からの短時間公演やランチ付き公演、レクチャー付き公演など、気軽に参加できる多様な鑑賞機会を創出する。 ○ 文化芸術の側面から「3. 11」に思いをいたす事業を実施する。 ○ 音楽ホールにおける公演・活動についてのアーカイブを構築する。 	

② 活力		交流・都市活性化事業
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広域から参加者が集まる交流事業やフェスティバル、集客力の高い事業などにより、来館・来街者を拡大していく。 ○ 青葉山エリアに関する情報提供や憩える場の提供などにより、エリアの活性化に寄与する。 ○ 青葉山エリアや都心部の施設・機関・店舗等と連携した企画展開により、音楽ホールのみならずエリアの魅力・仙台の魅力そのものを高め、賑わいをもたらす。 	
取組例	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設における広場的空間で、人が集まり賑わいが生まれるイベント、展示等を開催する。 ○ 「仙台クラシックフェスティバル」や文化芸術の東北大会・全国大会など、広域から人を集める事業の主会場となる。 ○ 市街地で開催されるフェスティバル系イベントと連携した企画を行う。 ○ 青葉山エリアや都心部で、音楽ホールで開催されるイベントの一端を楽しむサテライト公演を行う。 ○ 周辺の文化施設等とのコラボレーション企画を行う。 ○ 都心部の商業施設・飲食店等における、チケットの半券を活用した割引サービスの実施など、回遊性を高めるための取組を行う。 	

③ 発揮		文化芸術力発揮事業
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会包摂の視点に立ち、全ての市民が文化芸術を体験し、自らが持つ創造性を発揮できる多様な機会を創出する。特に、乳幼児を含む子どもたちが文化芸術と触れあう機会を創出し、生活の中に文化芸術が豊かにあふれる環境の醸成を図る。 ○ 東日本大震災からの復興の力となった文化芸術の可能性を発展させ、地域・社会における諸課題の解決に文化芸術の力を活かすための取り組みを推進する。実施にあたっては、教育、福祉、医療、国際交流、産業など様々な分野との連携を図るとともに、最先端の技術の活用の可能性も模索する。 ○ 災害文化拠点としての取組とも連動しながら、新たなコミュニティの形成に寄与し、地域のレジリエンスを向上させる。 ○ 今後大きな災害が起きた場合には、文化芸術による復興支援の中心拠点となる。他都市で災害が起きた場合にも、東日本大震災時の経験を踏まえ、災害時の文化芸術活動のノウハウの伝授など、適切な支援を行う。 	
取組例	<ul style="list-style-type: none"> ○ 0歳から高齢者までの様々なライフステージ、障害の有無、国籍、ジェンダーなど様々な社会的背景を考慮し、誰もが持てる創造性を発揮し、居場所づくり・生きがいづくりへとつながっていくようなプログラムを展開する。 ○ 乳幼児を含む子どもたちを対象に、それぞれの発達段階に応じたプログラムを用意し、純粋な楽しみから創造性の発揮につながっていくようなワークショップ・プログラムなどを展開する。 ○ 施設に足を運ぶことが難しい人々のところへ出向いて文化芸術の体験機会を提供する、アウトリーチ事業を行う。災害文化の普及を含む、地域コミュニティの発展・活性化にも寄与することを目指す。 	

④ 育成		普及・人材育成事業
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ プロフェッショナルを目指す人、趣味として活動する人、社会貢献やまちづくりのために活動する人、それぞれの立場において、より一層技量や能力を高められる機会を提供する。特に、若い世代に様々なチャンスや出会い、体験の機会を生み出す。 ○ 市民の文化芸術活動を様々な形で支援するとともに、団体間交流などを促進する。 ○ 人材育成の第一歩として、幅広い層を対象に、施設や文化芸術に興味を持ってもらうための入門的な企画も実施する。 ○ 文化芸術の担い手と地域や他分野のステークホルダーなどをつなぐコーディネーターや、音楽ホールの事業の柱の1つとなるワークショップを企画・実践できるリーダー的人材など、多様な人材を施設の内外に育成し、仙台の文化芸術環境の向上、文化芸術の可能性の拡張につなげていく。 	
取組例	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「創造」「活力」「発揮」事業において、参加者公募や地元人材の起用を積極的に行い、実践を通じた人材育成を図っていく。 ○ 主要文化施設や教育・研究機関等と連携し、人材の交流を活発化させる。 ○ バックステージツアーや入門講座など、施設や文化芸術に興味を持ってもらうためのものから始まり、より本格的に文化芸術に取り組みたい人を対象とした講座・ワークショップなど、多様な育成企画を実施する。 ○ 教育委員会等とも連携し、市内の児童・生徒に文化芸術の鑑賞の機会を提供する事業を展開する。また、部活動の地域移行など新たなテーマに関しても連携・協力を行っていく。 ○ 市民の文化芸術活動に対する伴走型支援や、団体間のネットワーク形成の促進を行う。また、音楽ホールが有する舞台技術などの専門ノウハウを、地域の人材にも拡げていく。 	

【事業の分類について】

例えば、仙台国際音楽コンクールは「楽都」の都市ブランドを高めるものとして「創造」事業に掲げていますが、交流の促進、都市活性化（活力）、地域の文化環境の底上げ（育成）などにもつながっています。また、各種事業の実施において地域の担い手を巻き込んでいくことが、実践的な人材育成の役割も果たします。

このように、音楽ホールが行う各事業は、必ずしも「創造」「活力」「発揮」「育成」の1つだけに当てはまるものではなく複数の側面を併せ持つものと捉え、文化芸術の多面的な力を活かせるよう事業を推進していきます。

【周辺文化施設との連携協力について】

音楽ホールと同じく「創造発信拠点」と位置づける青年文化センターをはじめ、せんだい演劇工房 10-BOX、各区文化センターなどの市内文化施設と連携・協力体制を築き、適切な役割分担のもと効果的・効率的な文化振興施策の推進を図ります。また、周辺自治体の文化施設との連携により、宮城・東北の魅力のより一層の創出・発信を図ります。

(4)場の提供(貸館)について

(貸館システム)

- 音楽ホールの施設の貸し出しについては、文化芸術の総合拠点という施設の位置づけ、利用者の特性などを考慮し、本市の様々な市民利用施設に導入されている「市民利用施設予約システム」とは異なる独自の予約方式の導入を検討します。この際、一般的な施設利用の受付時期より早期に予約を受け付ける優先的取扱いについての基本的考え方、対象範囲などについても検討していきます。
- 国際センターだけでは施設が不足し、これまで青葉山交流広場にテントを設置して開催されたものと同等の大規模学会については、施設の先行予約を特例的に受け付けることについて検討します。この際、施設の本来目的である文化芸術分野の利用に一定以上の影響が及ぶことがないよう、特例的取扱いの対象となる要件などについても併せて検討します。

(利用客席規模による料金システム)

- 集客数は2,000人に満たなくても、十分な広さと優れた設備・機能を有する舞台での活動を望む市民団体等が積極的に大ホールを利用できるように、入場料や使用する客席規模に応じた段階的な使用料を定めることを検討します。

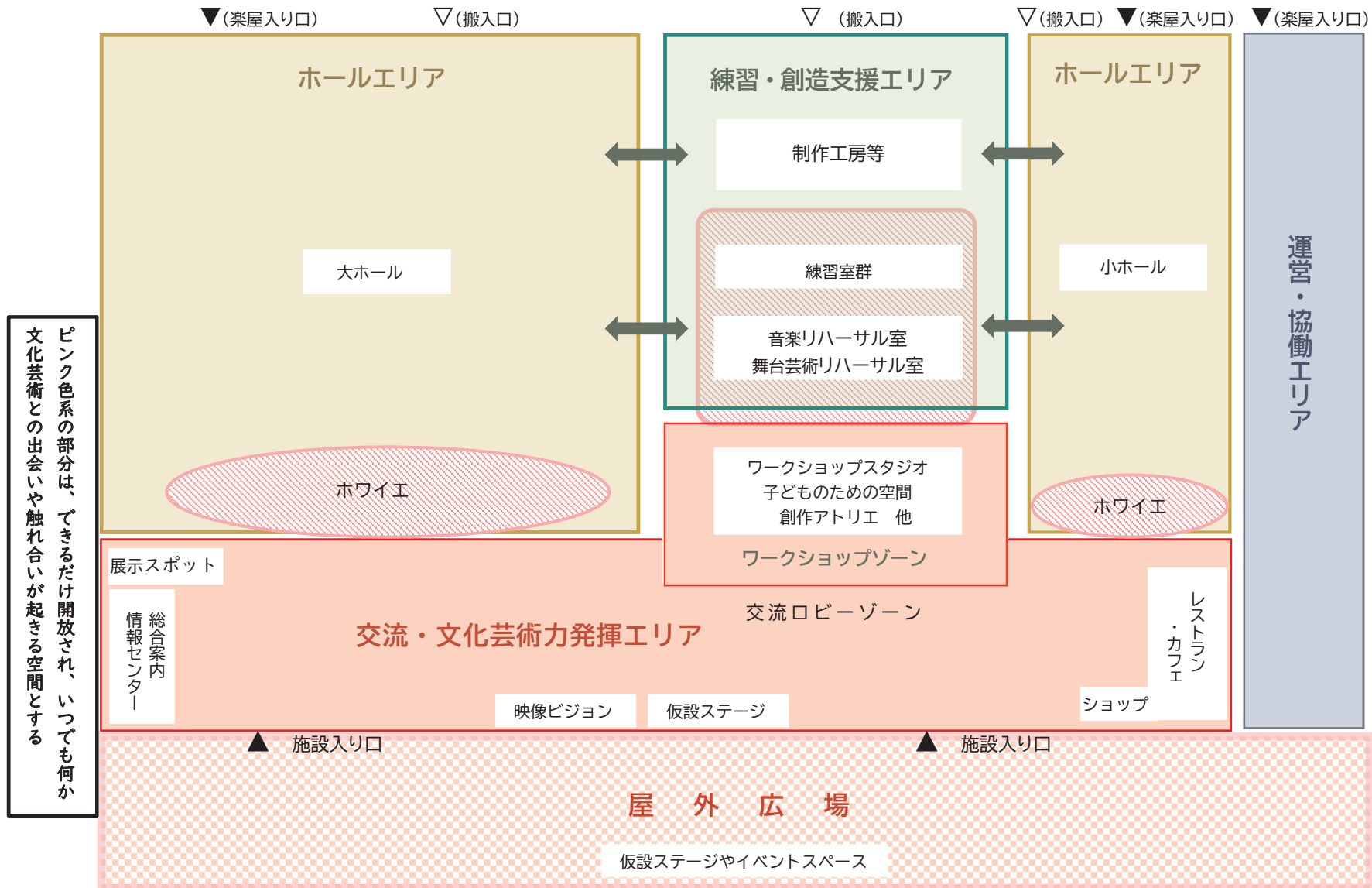
4. 音楽ホールの施設

(1) 施設構成と主要施設

6つの機能を発揮し、前項に提起した事業を適切に実施していくために、以下の主要施設を整備します。

施設エリア	主要施設
①ホールエリア	<p>■大ホール</p> <p>○ クラシックのコンサートやオペラ・バレエの上演などをはじめとする生の音源に対する音響を重視した、2,000席規模のホール</p> <p>■小ホール</p> <p>○ 生の音源に対する音響を重視しつつ、市民の多様な実演芸術活動の場となり、プロフェッショナルな創造活動の場ともなる300~500席程度のホール</p>
②練習・創造支援エリア	<p>■音楽リハーサル室</p> <p>○ 大ホールでの本番に近い環境（舞台の広さ、音響）で音楽公演のリハーサルが行えるとともに、小規模の発表会にも対応した空間</p> <p>■舞台芸術リハーサル室</p> <p>○ 大ホールでの本番に近い環境（舞台の広さ、設備）でバレエ・演劇など舞台芸術公演のリハーサルが行えるとともに、小規模の発表会にも対応した空間</p> <p>■練習室群</p> <p>○ 小ホール公演のリハーサルも想定した中規模練習室の他、多様な文化芸術の稽古・練習のための、広さや設備の異なる複数の練習室</p> <p>■制作工房等</p> <p>○ 木工、小道具、衣裳などの加工の場、水場・洗濯場、収録室など一連の創作活動に必要な諸室</p>
③交流・文化芸術力発揮エリア	<p>■交流ロビーゾーン(エントランスゾーン)</p> <p>○ 開館時間を通じていつでも人が訪れ、憩うことができる空間</p> <p>▶演奏、パフォーマンス、展示、イベントなどを可能とし施設に賑わいを生む</p> <p>○ 総合案内や情報センター、大型映像ビジョン、事業等の魅力を発信する展示スポット、カフェ・レストラン、ミニショップなど</p> <p>■ワークショップゾーン</p> <p>○ 様々な実演ワークショップや体験型イベントが行われるワークショップスタジオや創作アトリエ、子どものための空間</p> <p>▶交流ロビーに面し、活動が周囲に染み出すような空間設計上の工夫をする。</p>
④運営・協働エリア	<p>○ 施設の管理運営・事業実施に必要な諸室、事業を協働して推進していく団体の諸室等</p>
その他	<p>○ 機能諸室外の廊下、階段、エレベーター、エスカレーターなど共通動線、ダクトスペース、設備・機械室等</p>
屋外広場	<p>○ 誰もが自由に集い、憩うことができ、様々な催事にも対応する屋外空間</p>

施設構成イメージ (図の広さもイメージです)



(2)施設の基本的考え方

施設全体にわたる基本的な考え方として、以下の点を重視します。

①全ての人が利用できるユニバーサルな施設

- 0歳から高齢者まで、障害のあるなし、国籍や社会的背景に関わらず、誰もが安心して来館し、利用できる施設とします。
- 鑑賞者・参加者としてだけでなく、主催者・出演者として施設を使う場面も含め、全ての人が利用しやすいユニバーサルなデザインとします。

②いつ来ても居場所があり、文化芸術との出会いのある施設

- 交流ロビーゾーン（エントランスゾーン）や屋外広場は、誰もがいつでも気軽に訪れることができ、多様な催しが展開され、文化芸術との出会いが起こる場となるよう空間づくりを行います。
- ワークショップゾーンや音楽・舞台芸術リハーサル室、練習室などについても、中で行われている活動が室内で完結せず、外へと染み出していくような造りとします。
- 小さな子どものいる方が親子で来館したいと思えるような施設づくりを行います。さらに、日中は高齢者、夕方は生徒・学生、夜は勤労者など、一日を通して多様な人が訪れる施設としていくことを目指します。
- 青葉山エリア内の他施設を来訪目的とする人も、気軽に立ち寄りや通り抜けができるような、開かれた施設づくりを行います。

③施設全体を使って総合的な活動を展開できることが特徴となる施設

- 仙台国際音楽コンクールや文化芸術関係の大会、他施設とも連動して展開するフェスティバル的な事業など、ホールだけではなく全てのエリアの諸室をフルに活用する事業にも対応できるようにし、そのことが施設の特徴の1つとなることを目指します。
- 大規模な催事などの場合には、リハーサル室や練習室、ワークショップゾーンの諸室を楽屋、控室、会議室等として利用することなどを想定し、セキュリティやリスクマネジメントにも十分に配慮しながら、諸室の仕様や適切な来館者動線（いわゆる表動線）、関係者動線・搬出入動線（いわゆる裏動線）を検討します。
- 複数の施設が同時に使われても音の漏れ、音や振動の干渉が起きないような構造的、設備的対応を行います。

④市民もプロフェッショナルも「みんな」で育む施設

- プロフェッショナルの公演を市民が鑑賞するだけの施設ではなく、市民も舞台上に上がったり、施設で行われる様々な活動を提案したり、プロとともに新たな創造を行ったりといった形で主体的に参画できる、「みんな」で育む施設を志向します。
- そのために、高度な専門技術がなくても取り扱えるような舞台機構や設備、プロも市民もともに使える制作工房を設けることなどに配慮します。

⑤先端技術に対応できる施設

- 技術の進歩に伴い、舞台上における演出に様々な映像・通信技術が用いられるようになっていくとともに、チケットの電子化、制作・練習におけるオンライン活用などが今後一層普及することも予想されます。このため、館内全てのエリアで映像・通信技術を適切に活用できるよう、基盤的な環境整備を行います。

(3)主要施設の方向性

①-1 ホールエリア 大ホール

大ホール	クラシックのコンサートやオペラ・バレエの上演などをはじめとする生の音源に対する音響を重視した2,000席規模のホール
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ホールが楽器」と言われるような、生の音源の響きに対する優れた音響性能を有するとともに、演奏者と聴衆が一体感を感じられるよう、舞台と客席が融和した音楽空間として魅力的なホールとする。 ○ 舞台の音響反射に係る設備は可変とし、視認性に優れ、オペラ・バレエなどの多彩な舞台芸術公演が可能な「プロセニウム形式」に転換できるホールとする。 ○ 客席は2,000席規模（固定席）とする。 ○ 生の音源の響きに対する音響性能の実現という視点を最重視し、この視点において望ましいホールの空間容積を確保するとともに、舞台形状、舞台設備、客席構造等の検討にも最先端の技術、最高度の知見を結集し、これからの時代を牽引し、国内外から高い評価を獲得できるホールを目指す。 ○ 十分な広さと優れた設備・機能を有する舞台を、プロ・市民がともに使えるよう、入場料や使用する客席規模に応じた段階的な使用料設定を想定する。
舞台関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音響反射設備を設置した形式をホールの常態とするが、できる限り短時間、軽作業でプロセニウム形式への転換が行われるよう、設備上の配慮を行う。 ○ 客席の前部は昇降できるものとし、音響反射設備設置形式においてはこの部分を舞台の高さまで上げてステージの一部とする。プロセニウム形式においては、オーケストラピットとして活用できるようにする。 ○ 音響反射設備設置形式においては、大型の合唱付の大編成オーケストラの公演にも対応できる広さを確保する。 ○ プロセニウム形式においては、基本として間口10間※、奥行10間程度の演技空間を確保する。プロセニウム・アーチ（舞台を額縁のように切り取る構造物）を可変のものとするなどにより、8間間口程度の演技空間としても適切に利用できるものとする。舞台の上手、下手に、演技空間と同等の広さの空間（側舞台）を確保する。 ※1間=約1.82メートル ○ 搬出入口、ピアノ庫などは、可能な限り舞台と同一平面に配置する。不可能な場合は専用エレベーター等を付置し、適切な運用ができるようにする。 ○ 搬出入口については、11トントラック2台が同時に積み下ろしでき、荷解き場、舞台等との連続性が確保されたものとする。
楽屋関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な広さ・設備を備えた楽屋を、できる限り舞台と同じ平面に設ける。 ○ できる限り音出し調音ができるよう防音性に配慮し、一部の楽屋は大きな音の出る楽器でも対応できるような高い防音レベルとする。
客席関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 客席の配置については、音楽や舞台芸術に求められる性能要件を踏まえつつ、多階層化、バルコニー席の設置など最善の工夫を図る。 ○ 車椅子席など障害のある方のための座席は、席数を適切に確保するだけでなく、利用者が席を選択できるような工夫を図る。 ○ ホワイエはホールの利用が無いときには開放され、一般来館者が利用できるようにする。

①-2 ホールエリア 小ホール

小ホール	生の音源に対する音響を重視しつつ、市民の多様な実演芸術活動の場となり、プロフェッショナルな創造活動の場ともなる300～500席程度のホール
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ リサイタルや小編成の音楽演奏会を想定し、生の音源に対する音響性能を重視するとともに、上手、下手に側舞台を持つ舞台に可変できるものとし、演劇、ダンス、バレエ、演芸などの舞台芸術でも利用できるものとする。 ○ 客席規模は300～500席程度（固定席）とし、ワンボックス型で、客席と舞台が向かい合うエンドステージ形式を想定する。 ○ 市民の多様な創造活動の場になるとともに、実験的な取り組みなどでプロフェッショナルにも使われるような空間となることを目指す。
舞台関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6間*間口の演技エリアが確保できる舞台の広さを確保する。舞台上部にバトンを設けるが、フライタワー、プロセニウムは持たない。 ※1間=約1.82メートル ○ 舞台を、音響反射板の役割を担う側壁で囲むとともに、この側壁を開放するなどして、上手、下手にそれぞれ3間幅程度の大きさで側舞台を備える。 ○ 搬出入口、ピアノ庫などは可能な限り舞台と同一平面に配置するが、不可能な場合には専用エレベーター等を付置し、適切な運用ができるようにする。
楽屋関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な広さ・設備を備えた楽屋を、できる限り舞台と同じ平面に設ける。 ○ できる限り音出し調音ができるよう防音性に配慮し、一部の楽屋は大きな音の出る楽器でも対応できるような高い防音レベルとする。
客席関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 客席前部の椅子を外して、1間程度の前舞台が組める仕組みを検討する。 ○ ホワイエを適切な規模で設ける。

②-1 練習・創造支援エリア 音楽リハーサル室

音楽リハーサル室	オーケストラ・合唱など生の音源の演奏に対応したリハーサル室
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大ホールの音響反射設備設置時の舞台面積を基本に、4管編成のオーケストラの演奏が十分に可能な広さを確保する。天井の高さも適切に確保し、大ホールでの音響条件にできるだけ近づけることで、大ホール公演のリハーサルに適した空間とする。 ○ オーケストラや合唱等の、本番に向けた大規模練習の場と想定する。 ○ 客席を設営することで、小規模な発表会など、観客を入れた利用にも対応できるようにする。
各種事項	<ul style="list-style-type: none"> ○ 天井にはバトンを設ける。 ○ 公開リハーサル等に対応できるように、区画された小規模な観覧席を設ける。 ○ フルコンサートピアノや発表会等で必要となる機材・備品、それらを保管する備品庫、控室等を整備する。 ○ 仙台フィルハーモニー管弦楽団や大ホールで公演を予定している団体などが必要なタイミングで利用できるよう、優先予約の仕組みを検討する。

②-2 練習・創造支援エリア 舞台芸術リハーサル室

舞台芸術 リハーサル室	バレエ・演劇等、舞台芸術のためのリハーサル室
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大ホールの演技空間（10間四方）より一回り大きい面積を確保し、オペラ、バレエ、演劇、舞踊などの主ホールでの公演のリハーサル、通し稽古などに適した空間とする。 ○ 大ホールでの舞台演出等が再現、確認できるように必要な舞台設備を持ち、バレエ・ダンス等での利用も踏まえ天井高を十分に確保する。 ○ 客席を設営することで、小規模な発表会など、観客を入れた利用にも対応できるようにする。
各種事項	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一辺の壁には一面に鏡を配する。適切な位置にバレエバーを配置する。これらはカーテン等で覆うことができるものとする。天井にはバトンを設ける。 ○ 発表会時に視認性の良い客席を容易に組めるよう、一辺の壁に小型のロールバックチェアを備えることを検討する。 ○ 多様な活動に対応するための床面養生用シートもしくはパネル、ピアノ、発表会等で必要となる機材・備品、それらを保管する備品庫、控室等を整備する。 ○ 大ホールで公演を予定している団体などが必要なタイミングで利用できるよう、優先予約の仕組みを検討する。

②-3 練習・創造支援エリア 練習室群

練習室群	多様な実演芸術の活動の稽古・練習のための部屋
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々なジャンルの実演芸術の稽古・練習のため、中規模、小規模の異なる性能の部屋を複数整備する。中規模練習室の一つは、小ホールのリハーサルに適切なものとする。 ○ ホール等での公演や発表を目指した稽古・練習利用をはじめ、市民の日常的な文化活動での利用を想定する。施設の自主制作事業における利用も想定する。
各種事項	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各室にピアノを配置する。防音性能を確保する。 ○ 壁面をガラスで仕上げ、音は漏れないが、周囲から活動を見ることができる部屋を複数設ける。 ○ 大型事業の開催時には控室、会議室等として利用されることも想定する。

②-4 練習・創造支援エリア 制作工房等

制作工房等	舞台芸術公演等に伴う様々な制作活動を行う場
概要	○ 大ホールや小ホールでの公演、ワークショップなどの体験事業などで使われる道具、衣裳、舞台美術などを制作する場を整備する。木工等の加工場、水場のある舞台美術等制作室、小道具や衣裳などを制作・補修する作業場、洗濯場、収録室などを設ける。
各種事項	○ 専門の技術者・スタッフだけでなく、体験・育成事業や子ども向けワークショップなどで幅広い層が利用することを想定する。

③-1 交流・文化芸術力発揮エリア 交流ロビーゾーン(エントランスロビー)

交流ロビーゾーン	誰もがいつでも訪れ、憩い、文化芸術の出会いがあるロビー
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ エントランスロビーであるが、人々が目的を持たずに訪れても居場所があり、文化芸術との出会いがあり、周りで展開される文化芸術活動に触発されたり、人とのコミュニケーションや交流が生まれたりする空間とする。 ○ 演奏、パフォーマンス、展示、イベントなど、施設に賑わいを生み、エリア全体の魅力向上につながるような取り組みを、施設が主体となって行っていくことを想定し、そのために必要な設備を備える。 ○ 総合案内や情報センター、カフェ・レストラン、ミニショップなどを備える。また、自由に使える椅子・テーブル等を置き、気軽に集い、憩える空間とする。 ○ 大型映像ビジョンを設け、館内の活動を放映したり、映像作品の放映をしたり、ライブビューイングを行うなど多様な活用を想定する。 ○ 施設で行われる事業の魅力を伝えたり、楽都仙台のこれまでの歩みを振り返るなどの展示・情報提供を行う展示スポットを設ける。 ○ ワークショップゾーン、音楽・舞台芸術リハーサル室、練習室、屋外広場といった他の施設との連続性を意識し、それらの空間で行われている活動が見えたり、交流ロビーゾーンにまで活動が拡張されたりといったことを想定する。

③-2 交流・文化芸術力発揮エリア ワークショップゾーン

ワークショップゾーン	0歳から高齢者まで、全ての人が多様な糸口から文化芸術を体験し、参加できる場、同時に、そのための人材を育む場
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 0歳から高齢者まで、障害の有無に関わらず、国籍や社会的背景を問わず、全ての人が多様な糸口から、文化芸術の体験・創作に参加できる場を提供する。 ○ そのために、独自にワークショップ等のプログラムを開発できる人材を育む場、プログラムを適切に制作・実践していくための場として、ワークショップスタジオ、創作アトリエ、子どものための空間などを設ける。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークショップスタジオは、照明・音響等の舞台技術を用いた演出が可能であるとともに、参加者も音出ししたり、大きく身体を動かしたりできるよう、外部に音が漏れない防音の空間を想定する。 ○ 創作アトリエは音楽の鑑賞をベースに軽易な動きを伴う活動や、舞台美術など制作系のワークショップなどができる、一定の防音がなされた空間を想定する。 ○ 子どものための空間では、乳幼児を含む子どもたちが、それぞれの発達状況に応じたプログラムにより、様々な体験ができるようにする。事業の無いときには開放して、小さな子どもが自由に遊べるような空間とする。イベント開催時の託児スペースとしての活用も想定する。 ○ 障害のある人や様々な特性を持った人がストレスなく活動に参加できるよう、空間づくりにおいて工夫する。 ○ 交流ロビーとは連続的につながり、交流ロビーを訪れた人が活動を見ることができたり、時に、交流ロビーに活動が展開していったりする、緩やかなつながりを持たせる。
--	--

⑥運営・協働エリア

運営・協働エリア	施設の管理運営・事業実施に必要な諸室、 事業を協働して推進していく団体の諸室等
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設の管理運営や事業実施に必要な事務所、会議室、倉庫、受付相談窓口等を整備する。 ○ 国際音楽コンクールなど市の文化振興施策を展開する事務局、当施設を本拠地とする仙台フィルハーモニー管弦楽団の事務局や楽器庫・楽譜庫等、事業を協働して推進していく団体の諸室を整備する。

■屋外広場

屋外広場	誰もが自由に集い、憩えるとともに、様々な魅力的な催事が 行われ、エリアへの来訪意欲を増幅させるような屋外広場
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広場として、誰もが自由に集うことができ、憩える環境を整備する。 ○ 音楽やパフォーマンス、大道芸、屋外展示など、様々な催事の開催が可能な空間とする。 ○ 施設内のカフェとの連携やキッチンカーの導入などによって、飲食が自由に行えるような広場とする。 ○ 交流ロビーゾーン（エントランスロビー）との連続性を持つ。 ○ 震災発災日には、祈念行事を行うなど、市民が思いを込め、育てていける広場とする。

(4)施設の規模

諸室の大きさや施設の規模は基本計画においてさらに精査していくこととなりますが、現段階において以下のように想定しています。

エリア	主な施設	床面積の想定
ホール エリア	<p>○大ホール：クラシックのコンサートやオペラ・バレエの上演などをはじめとする生の音源に対する音響を重視した、2,000席規模のホール（ホワイエ・楽屋・バックヤード等含め7,400～7,500㎡程度）</p> <p>○小ホール：生の音源に対する音響を重視しつつ、市民の多様な実演芸術活動の場となり、プロフェッショナルな創造活動の場ともなる300～500席程度のホール（ホワイエ・楽屋・バックヤード等含め1,600～1,700㎡程度）</p> <p>※ホールの利用が無いときには開放することを想定している大ホールホワイエは1,600～1,700㎡程度、小ホールホワイエは250㎡程度。</p>	9,000㎡ ～9,200㎡ 程度
練習・ 創造支援 エリア	<p>○音楽リハーサル室（倉庫・諸室等含め500㎡程度）</p> <p>○舞台芸術リハーサル室（倉庫・諸室等含め600㎡程度）</p> <p>○練習室群（複数の中・小練習室等）</p> <p>○制作工房等（小道具・美術等制作場、収録室等）</p>	1,900㎡ ～2,000㎡ 程度
交流・文化 芸術力発揮 エリア	<p>○交流ロビーゾーン（2,000㎡程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エントランス交流ロビー（1,200㎡程度） ・情報コーナー、展示スポット、カフェ・レストラン等 <p>○ワークショップゾーン（1,100㎡程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップスタジオ（300㎡程度） ・子どものための空間、創作アトリエ等 	3,000㎡ ～3,100㎡ 程度
運営・協働 エリア	<p>○施設の管理運営・事業実施に必要な諸室、事業を協働して推進していく団体の諸室等</p>	2,200㎡ ～2,500㎡ 程度
その他	<p>○廊下、階段、エレベーター、エスカレーター、ダクトスペースなどの機能施設以外の共通動線等及び設備・機械室等</p>	12,900㎡ ～13,200㎡ 程度
<p>合計（延床面積） ※施設内駐車場面積は算定せず</p>		29,000㎡ ～ 30,000㎡ 程度

5. 音楽ホールの組織

(1) 運営組織のあり方

音楽ホールにおける事業や施設のあり方を踏まえ、以下の2つの視点を重視しながら、運営組織のあり方、運営組織選定のあり方を検討していきます。

① 多様な専門人材の確保

- 文化芸術の総合拠点である音楽ホールを運営していくには、音楽や舞台芸術の公演の企画運営や舞台技術に精通した人材をはじめ、社会包摂的な事業や地域における担い手の育成、災害文化分野との連携などに取り組む人材、地域・社会課題に対する文化芸術力の発揮といった新しい分野に挑戦しプログラムを開発していくような人材など、多様な専門性をもった人材が求められます。
- そのような人材は全国的にも希少であり、人材確保や新規育成に早い段階から計画的に取り組んでいく必要があります。

② 市の文化芸術政策等と協調した事業展開を適切に実行できる組織であること

- 音楽ホールは、仙台の文化芸術の総合拠点として、本市の文化芸術環境を牽引し、文化芸術によって社会をより良くしていく拠点となることが求められます。また、青葉山エリアや都心部の活性化といった、施設単体にとどまらない面的な広がりのある運営も求められます。このため、仙台市の文化芸術政策・都市政策と歩調を合わせ、市と密接に対話・連携しながらの事業展開を、適切に行っていける組織であることが必要となります。

(2) 芸術監督など高度専門人材の登用について

- オリジナルな作品創作や創造活動に注力していく専門性の高い施設であることから、芸術監督など、芸術面を主導する人材の導入が課題となります。芸術監督の職能や権限、任期等は導入している施設ごとに様々であり、芸術監督以外の役職名で芸術面を主導する人材を置いているケースもあります。主催事業に対する考え方、地域特性、施設内の事業実施体制等を勘案して判断する必要があり、今後さらに検討を進めていきます。
- このほか、事業統括をするプロデューサーなど事業運営の専門家、舞台監督など舞台技術運営の専門家といった人材の登用のあり方についても検討を進めます。

(3)運営組織概要想定

音楽ホールの管理運営・事業実施に必要な組織の概要を以下のように想定します。

長	所管分野	業務内容
施設長 (館長)	事業	●各種事業（創造発信事業、交流・都市活性化事業、文化芸術力発揮事業、普及・人材育成事業）の企画制作・コーディネート・調整・進行管理・プロモーションなど ●営業・マーケティング
	舞台技術	●舞台機構、照明、音響、映像通信等の舞台技術の管理・運用 ●市民の舞台技術養成支援
	総務・経営	●総務（庶務、経理など） ●経営計画・評価 ●施設広報、会員・顧客管理、ファンドレイズ（資金調達） ●周辺施設、各種機関との連携・調整窓口
	施設運営管理	●貸館運用（貸館システム運用、利用者対応など） ●サービス（総合案内、チケットセンターなど） ●建物・設備管理、清掃等環境整備、保安警備、植栽管理、駐車場管理など